

グリホサートイソプロピルアミン塩液剤 カルナクス	取扱メーカー： 協友アグリ 原体メーカー： 三井アグロ
成分： グリホサートイソプロピルアミン塩〔アミノ酸系〕…41.0%	性状： 淡黄色澄明水溶性液体 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】

- 非選択性、吸収移行型の茎葉処理除草剤である。
- 雑草の生育旺盛期の茎葉処理で一年生から多年生雑草、かん木類までほとんどの雑草を枯らす。
- 土壌表面に落下すると、速やかに土壌粒子に強く吸着されて不活性化し、植物への活性が消失する。また、土壌中の微生物により水、炭酸ガス、リン酸、アミノ酸など無害な物質に分解され、有用植物の根部吸収害を生じる心配がなく、永年の連用使用による土壌中での蓄積の心配もない。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】

- 散布適期は雑草が生え揃った生育盛期～生育旺盛期である。
- 薬液が茎葉全体にかかるように散布する。
- 散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きいほど、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わないようにする。
- 通常2～14日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しない。
- 散布後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を見極めてから散布する。
- ドロで濁った水を使うと、ドロの粒子に薬剤が吸着されるので十分な効果が期待できないことがある。
- スギナの生育期を過ぎた時期での散布及びスギナが他雑草に埋没しているような条件では効果が劣る事があるので、適期にスギナにかかるようにする。
- 展着剤加用の必要はない。

●グリホサートを含む農業であるので、他のグリホサートを含む農業の使用回数と合わせ、作物毎の総使用回数の範囲内で使用する。

【薬効・薬害等の注意】

- 散布液の調製に際しては合成樹脂の内層のない鋼鉄製（ステンレスを除く）の容器類は使用しない。なお散布液を調製した容器及び散布器具は、使用後十分に水洗いする。
- 出芽前に使用する場合は、作物の出芽後に散布すると薬害を生じるおそれがあるので、必ず出芽前に散布する。
- 特に生育期畦間散布に使用する場合は、作物にかからないよう十分に注意して散布する。
- 注入処理における注意
 - クズには株頭にナタなどで傷をつけ、薬液がよくしみこむように注入処理する。
 - 落葉雑かん木には、樹幹の回りに等間隔にナタ目を入れ、薬液を注入処理する。
 - 処理竹から15m以内に発生したたけのこを食用に供さない。また、縄囲いや立て札によりたけのこが採取されないようにする。
- 適用外作物（農作物、有用作物）への薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。
- 共通注意事項8. 適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】

- 共通注意事項6. 街路・公園・堤とう等で使用する場合は注意事項を参照。
- 魚類に影響を及ぼすので、養殖池等周辺での使用はさける。



【適用と使用法】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	10 a 当り使用量		本剤の 使用回数	使用 方法	グリホサートを含む 農薬の総使用回数	
				薬量	希釈水量				
果 樹 類 (かんきつ、 パイナップル を除く)	—	一年生雑草	収穫 7 日前まで (雑草生育期： 草丈 30 cm 以下)	250 ～ 500 ml	通常散布 50 ～ 100 ℓ 少量散布 25 ～ 50 ℓ	3 回 以内	雑草茎 葉散布	3 回以内	
かん き つ		多年生雑草		500 ～ 1000 ml				5 回以内	
		一年生雑草		250 ～ 500 ml					
		多年生雑草		500 ～ 1000 ml					
豆 類 (種実、但 し、だいず、 らっかせい を除く)		一年生雑草	は種 7 日前まで (雑草生育期) は種後出芽前まで (雑草生育期： 草丈 30 cm 以下) 畦間処理：雑草 生育期 (草丈 30 cm 以下) 但し、収穫前日 まで は種 7 日前まで (雑草生育期)	250 ～ 500 ml	通常散布 50 ～ 100 ℓ 少量散布 25 ～ 50 ℓ	2 回 以内		2 回以内	
だ い ず								4 回以内	
えだまめ				1 回					
小 麦		多年生 イネ科雑草	耕起前又は は種前まで (雑草生育期： 草丈 30 cm 以下)	250 ～ 1000 ml	25 ～ 100 ℓ	3 回 以内	3 回以内		
		一年生雑草		250 ～ 500 ml					
		多年生雑草	耕起 7 日前まで (雑草生育期： 草丈 30 cm 以下)	500 ～ 1000 ml	100 ℓ	1 回			
		圃場内の 周縁部	収穫 7 日前まで (雑草生育期)	250 ml	25 ～ 100 ℓ	3 回 以内			
麦 類 (小麦を除く)		一年生雑草	耕起 7 日前まで (雑草生育期)		100 ℓ	1 回		2 回以内	
かん し ょ			は種後出芽前 (雑草生育期)		25 ～ 100 ℓ				
			耕起又は挿苗 7 日前まで (雑草生育期)	250 ～ 500 ml	100 ℓ				
	耕起又は定植 7 日前まで (雑草生育期)								

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	10 a 当り使用量		本剤の使用回数	使用 方法	グリホサートを含む 農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
野 菜 類 (えだまめ、 キャベツ、 はつかだいこん、 だいこん、 とうがらし類、 にんじん、 ピーマン、ねぎ、 たまねぎ、 アスパラガス、 オリーブ (葉)、 きゅうり、 しゃくやく (薬用)、 たらのぎ、 トマト、なす、 びわ (葉)、 ほうれんそう、 レタス、 薬用にんじんを 除く)	—	一年生雑草	耕起又は定植 7日前まで (雑草生育期)	250 ～ 500 ml	通常散布 50 ～ 100 ℓ 少量散布 25 ～ 50 ℓ	1 回	雑草茎 葉散布	1 回
とうがらし類 にんじん ピーマン								2 回以内
アスパラガス オリーブ (葉) きゅうり しゃくやく (薬用) たらのぎ トマト なす びわ (葉) ほうれんそう レタス								3 回以内
薬用にんじん								10 回以内 (1 年間に 2 回以内)
だいこん					2 回以内			
はつかだいこん					1 回			
ね ぎ たまねぎ			耕起又は定植 7日前まで (雑草生育期)	通常散布 50 ～ 100 ℓ 少量散布 25 ～ 50 ℓ	3 回 以内	3 回以内		
								定植後畦間処理 但し、 収穫 30 日前まで (雑草生育期)
さとうきび (春植え)		多年生雑草	耕起 10 日前まで (雑草生育期)	500 ～ 1000 ml	1 回	6 回以内		
茶		一年生雑草	摘採 7 日前まで (雑草生育期)	250 ～ 500 ml		少量散布 25 ～ 50 ℓ		2 回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	10 a 当り使用量		本剤の 使用回数	使用 方法	グリホサートを含む 農薬の総使用回数	
				薬量	希釈水量				
樹 木 類	—	一年生雑草	雑草生育期	250～ 500 ml	通常散布 50～100 ℓ 少量散布 25～50 ℓ	4回 以内	雑草茎 葉散布	4回以内	
水田作物 (水稲を除く)			耕起20～10日前 (雑草生育期)		100 ℓ	1回		2回以内	
移 植 水 稲			湛水前30～5日前 (雑草生育期) (不耕起栽培)		50 ℓ				
直 播 水 稲		一年生雑草	耕起20～10日前 (雑草生育期)	250～ 500 ml	100 ℓ	2回 以内			
			耕起直後 ～出芽前 (雑草生育期) (乾田耕起栽培)	250～ 1000 ml	25～50 ℓ				
		多年生雑草	500 ml	50 ℓ					
		一年生雑草	250～ 1000 ml	25～50 ℓ					
		多年生雑草	500 ml	50 ℓ					
水田作物 (水田刈跡)		水田刈跡	一年生雑草	250～ 500 ml	25～100 ℓ	1回		1回	
			多年生雑草	500～ 1000 ml					
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	一年生雑草	収穫14日前まで (雑草生育期： 草丈30cm以下)	250～ 500 ml	通常散布 100 ℓ	2回 以内	3回以内		
		多年生雑草	500～ 1000 ml	少量散布 25 ℓ					
水田作物、 畑作物 (休耕田)	休耕田	一年生雑草	雑草生育期 (草丈50cm以下)	250～ 500 ml	通常散布 50～100 ℓ 少量散布 25～50 ℓ				
				多年生雑草	更新・造成の 10日前まで (雑草生育期)			50 ℓ	
		一年生及び 多年生雑草	は種10日前～ は種当日 (耕起整地後： 雑草発生揃期)		250～ 500 ml			少量散布 25～50 ℓ	
樹 木 等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	一年生雑草	雑草生育期	500 ml	通常散布 100 ℓ 少量散布 25 ℓ			3回 以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布
		多年生雑草		1000 ml					
		スギナ	生育盛期	2000 ml	少量散布 25～50 ℓ				
林 木	造林地 (地ごしらえ)	ススキ、ササ類、クズ等の多年生雑草、落葉雑草かん木	生育盛期以降	1000 ml	20～30 ℓ				雑草木茎葉散布

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
林 木	林地	ク ズ	春期又は秋期	原液又は2倍液	1～2 ml/株	—	株頭注入処理	—
		落葉雑かん木	5～10月		1 ml/ヶ所 樹径 ヶ所数 10 cm以下 2～3 10～20 cm 4～8 20 cm以上 10		立木注入処理	
	林地, 放置竹林, 畑地	竹 類	夏～秋期	原液	5～15 ml/本		竹稈注入処理	
樹木等	公園, 庭園, 堤とう, 駐車場, 道路, 運動場, 宅地, のり面, 鉄道等	落葉雑かん木	5～10月	原液又は2倍液	1 ml/ヶ所 樹径 ヶ所数 10 cm以下 2～3 10～20 cm 4～8 20 cm以上 10		立木注入処理	
		雑かん木	伐採直後		切り口全体に十分量を塗布		植栽地を除く樹木等の周辺地に切株塗布処理	